

GRADUATE SCHOOL OF SPORT AND EXERCISE SCIENCES
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

大阪体育大学大学院

スポーツ科学研究科

博士(前期・後期)課程



大学院 研究科長

浜田 拓 [HAMADA Taku]

専門分野：スポーツ生理学

学 位：博士（人間・環境学） 京都大学

主な業績：

Brain and muscle adaptation to high-fat diets and exercise: Metabolic transporters, enzymes and substrates in the rat cortex and muscle. Brain research, 2020.

Acute exercise increases brain region-specific expression of MCT1, MCT2, MCT4, GLUT1, and COX IV proteins. J. Appl. Physiol. 2014.

Possible involvement of AMPK in acute exercise-induced expression of monocarboxylate transporters MCT1 and MCT4 mRNA in fast-twitch skeletal muscle. Metabolism, 2013.

大学院 担当授業：

運動生化学特論、運動生化学特講

「広い視野」、「豊かな感性」、 「発想力」を持って探究を

本学大学院は、博士前期課程では、高度なスポーツ科学の知識を持ち実践的な指導を行える専門家の養成を、博士後期課程では、高度な専門知識に裏打ちされた斬新な研究を行う研究者の養成を目的としています。

研究教育体制は、文化・社会科学領域、身体運動・コーチ科学領域、健康・医科学領域の3つの専門領域を基盤とし、それに基づき、さらに5領域（スポーツ文化、競技スポーツ、健康スポーツ、学校体育、レジャー・レクリエーション）と11学問分野（保健・体育科教育学、スポーツ史・哲学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、アダプテッド・スポーツ、バイオメカニクス、教授学、スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学）の組み合わせにより、スポーツ科学の研究・教育に対する多様なニーズに応えられるように編成されています。

また、保健・体育分野とスポーツマネジメント分野においては、現役の保健体育教員や社会人に対応したスポーツ科学実践プログラムを開設しており、リカレント教育も推進しています。

このような研究教育体制の下で、スポーツ科学の研究を通じて、体育教育や運動・スポーツによる健康・生きがいがづくり、スポーツマネジメント、競技力の向上などの分野に貢献できる人材と、高度化・グローバル化するスポーツ科学の発展に貢献できる研究者を養成します。

大学院生の皆さんには、スポーツの持つ可能性を「広い視野」、「豊かな感性」、「発想力」を持って探究し、創造性に富んだ研究に挑戦してほしいと思います。

より科学的に。より実践的に。より高度に。よりプロフェッショナルに。

教育の目標

本学大学院スポーツ科学研究科は、高度なスポーツ科学の知識を持ち実践的な指導を行える専門家と、高度な専門知識に裏打ちされた斬新な研究を行う研究者を養成します。

博士前期課程

学部における体育・スポーツの教育を基盤に、スポーツ科学の研究を通じて、体育教育や運動、スポーツによる健康づくり、生きがいづくり、スポーツマネジメント、スポーツ競技力の向上などに高度で専門的な知識、技能を身につけた高度専門職業人と研究者を養成します。

博士後期課程

博士の学位を取得して、高度化する体育・スポーツ科学の発展に貢献できる研究者を養成します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

大学院における教育課程編成の方針

- (1) 大学院スポーツ科学研究科は、スポーツ科学専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。
- (2) 大学院スポーツ科学研究科博士前期課程は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度な専門知識及び能力を修得させるとともに、当該の専攻分野に関連する分野の基礎的教養を涵養するように適切に配慮する。
- (3) 大学院スポーツ科学研究科博士後期課程は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する諸課題を解決するために自立して研究を計画・実行・推進するための高度な専門知識及び能力を修得させる。
- (4) 大学院スポーツ科学研究科は、5領域（スポーツ文化領域、競技スポーツ領域、健康スポーツ領域、学校体育領域、レジャー・レクリエーション領域）と10学問分野（スポーツ史・哲学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント、スポーツ心理学、バイオメカニクス、教授学、スポーツ生理学、スポーツ医学、スポーツ栄養学、アダプテッド・スポーツ）を組み合わせて、スポーツ科学の研究・教育の多様なニーズに応える。

大学院における教育課程実施の方針

- (1) 大学院スポーツ科学研究科は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、研究領域 × 学問分野表に基づく授業科目を充実させ、多様な授業科目の履修から研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行う。また、本研究科の「学位授与の方針」に定めた修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示す。
- (2) 大学院スポーツ科学研究科博士前期課程は、学生の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、インターンシップなどの授業時間外の多様な学修研究の機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させる。
- (3) 大学院スポーツ科学研究科博士後期課程は、学生の活発な研究活動を促進する立場から、海外研究インターンシップなどの機会を通じ、国際的な見地に立った研究活動に積極的に挑戦させる。
- (4) 大学院スポーツ科学研究科は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として採点する。
- (5) 大学院スポーツ科学研究科は、博士前期課程及び博士後期課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。
- (6) 大学院スポーツ科学研究科は、博士前期課程スポーツ科学実践プログラム受講者の特定の課題についての研究成果の審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

- (1) 博士後期課程にあつては、研究科の定める期間在学して、研究科の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。
- (2) 博士後期課程にあつては、研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (3) 博士前期課程にあつては、研究科の定める期間在学し、研究科が教育と研究の理念や目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、課程を修了することが学位授与の要件である。課程修了に当たっては、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。なお、スポーツ実践科学プログラムを選択した場合、修士論文の審査及び最終試験を、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に代えることができる。
- (4) 博士前期課程にあつては、幅広い知識に裏打ちされた専門領域における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身につけているかどうか、課程修了の基準である。
- (5) 研究が、高い倫理性と強固な責任感をもって実施され、人類の平和と安寧に貢献できるものとなっているかも、大学院課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。

社会人の学びの場として

大阪体育大学大学院では、社会人、アスリート、大学教員など、仕事や競技を続けながら、大学院生として両立されている方が多く在籍しています。大学学部を卒業し、そのまま進学される方も、もちろん多く在籍しており、多種多様な大学院生たちが切磋琢磨できる環境です。インターンシップ制度も充実しており、国立スポーツ科学センター（JISS）での長期インターンシップ*も実施しています。社会人の学びなおしだけでなく、定年退職後の学びなおし、マスターズ選手の実践の場を兼ねた学びなおしなど、様々な方向から支援します。

※博士後期課程が中心となって実施しています。

国際交流事業 海外との活発な交流で世界レベルをめざす。

海外の大学や研究機関との学術・スポーツ交流を推進し、さらなる教育・研究フィールドの拡大につなげています。学内教員組織に国際・地域交流委員会を設置。それぞれの協定内容に沿った交流事業に取り組んでいます。

大阪体育大学の国際交流協定

西安体育学院	中国	学術・スポーツ協定	教員、大学院生を含む学生、両大学が認める人材が対象。 研究・調査・視察およびスポーツ交流、文献や情報の交換、留学などを行う。
ウエスタン大学	カナダ	交換プログラム	研究者の交流や学術および教育学的資料の交換、共同研究プログラムの調整などを行うことを目的としたプログラムで、学生が交換留学生として選出され、参加する。
台湾国立体育大学	台湾	学術交流協定	教員間の交流と連携をととして、教育交流と共同研究を行うことができる。 学部学生、大学院生は、希望すれば交流の機会が提供される。

大学院では、締結大学とのインターンシップ制度を設けており、経済的支援も行っています。

長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している等の事由により、本来の標準修業年限（2年）では履修が困難だと認められる者について、本来の修業年数（2年）において支払う授業料で、標準修業年限（2年）を超えて計画的に履修する事を可能にする制度です。この制度は、博士前期課程に入学する者、または在学する者が対象となります。

申請にあたっては、長期履修期間中の履修や研究方法等について、あらかじめ指導教員に相談し、承諾を得てください。

1 対象者

次のいずれかに該当する者が対象となります。なお、外国人留学生（在留資格「留学」を有する者）は申請できません。

- ・就業している者（自営業、単発的なものを除く非正規雇用も含む）。
- ・出産、育児、長期介護、身体の障がい等の事情を有する者。
- ・その他、やむを得ない事情を有し、標準修業年限で修了することが困難であると研究科長が認めた者

2 長期履修期間

在学年限（博士前期課程4年）の範囲内で、1年単位とします。

- ・休学期間は長期履修期間に含めません。

3 申請手続

- (1) 申請期間
 - ・入学時から長期履修制度の利用を希望する者は、出願時にあわせて申請すること。結果は入学試験合格結果とともに通知します。
 - ・在学中で新たに長期履修制度の利用を希望する者は、博士前期課程1年次生のみ3月末日までに申請すること。博士前期課程2年次生は申請できません。結果は、4月中旬までに通知します。
- (2) 申請書類（本学HPよりダウンロードしてください。）
 - ・長期履修学生申請書（様式第1号）
 - ・研究計画書（様式第2号）
 - ・長期履修が必要であることを証明する書類（在職証明書等）（任意書式）

4 納付金

本学規定の授業料と実験実習費を標準修業年限（2年）に乘以、長期履修期間（3年または4年）で分割した額を、年度ごとに納入していただきます。当該額に1,000円未満の端数があるときは、切り上げとします。具体的な納入額、納入時期

等については、長期履修の許可時に通知します。

- ・入学金は、本学規程の額を初年度に納入していただきます。
- ・教育後援会費は、本学規程の額を標準修業年限（2年）の間、納入していただきます。
- ・長期履修学生については、授業料等の延納（分納は可）の制度は適用できません。

5 長期履修期間の変更（延長・短縮・取消）

長期履修学生として許可された者が、長期履修の期間の延長、短縮あるいは取消をしたい場合は、指導教員の承認を得た上で、長期履修期間の変更が可能です（在学中1回限り）。

(1) 変更願の提出期間

- ・変更を希望する前年度の3月末日まで

(2) 変更願書類

長期履修期間変更願書及び理由書（様式第3号）

・延長

延長は、変更前の長期履修期間における最終学年在学者は願い出ることできません。

・短縮

短縮は、短縮後に1年以上の修業期間がない場合は願い出ることができません。また、短縮後の期間で修了できなかった場合は、通常の学生が留年した場合と同様の取扱いとなります。

・取消

取消は、標準修業年限における最終学年（2年）在学者は申請できません。また、取消後にあらためて長期履修制度に申請することはできません。

6 その他

- ・標準修業年限を超えた期間は、学内奨学金の対象にはなりません。
- ・標準修業年限を超えた期間は、日本学生支援機構の奨学金の対象にはなりません。ただし、その後の在学期間中は、在学届等所定の書類を提出することで返済が猶予されます。
- ・長期履修制度は、単位の取得状況や学位論文の審査過程により修了が延期となる（いわゆる留年）者を救済する制度ではありません。
- ・在学期間中に起こった療養、海外留学等、一定期間履修することができない者も対象ではありません。

学位の授与および取得免許

- 1 大学院博士後期課程の修了者には「博士（スポーツ科学）」の学位を授与し、博士前期課程の修了者には「修士（スポーツ科学）」の学位を授与します。博士後期課程は3年以上、博士前期課程は2年以上大学院に在学し、所定の単位（博士後期課程10単位以上、博士前期課程30単位以上）を取得するとともに学位論文等の最終試験に合格することにより、修了となります。
- 2 教育職員免許法の定める所定の単位を修得すると、中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）が取得できます（但し、中学校・高等学校教諭1種免許状（保健体育）既取得者のみ）。
- 3 本学体育学部健康・スポーツマネジメント学科健康スポーツコースを、健康運動指導士認定試験を受験するために必要な科目を未修得（4単位以内）で卒業後、科目等履修生として未修得科目の単位を取得すると（卒業後4年以内の者に限る）、健康運動指導士認定試験の受験資格が得られます（本大学院では、体育学部開講授業科目のうち1年間で3科目以内に限り、受講料免除で受講できます）。

奨学金制度

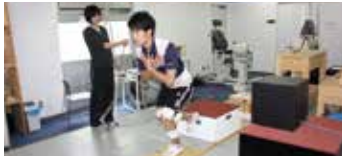
1 大阪体育大学大学院研究奨学金制度

本学独自の奨学金制度です。博士前期課程は、各年次5名の奨学生に月額5万円（年額60万円）の奨学金を1年間給付します。1年次生は入学後に募集を行い、入学試験の成績で判定されます。2年次生は、前年度の学業成績および研究業績で判定されます。返済の義務はありません。博士後期課程は、各年次3名の奨学生に月額5万円（年額60万円）の奨学金を給付します。入試（A日程）出願時と同時に募集を行い、入学試験の成績および研究業績で判定されます。期間は3年間で、返還の義務はありません。

2 その他の奨学金

給付型奨学金制度として、小野奨学会、戸部眞紀財団などがあり、採択されています。貸与型奨学金制度として、日本学生支援機構も利用可能です。また、特に優れた業績による返還免除制度があります。

[研究施設]



健康科学実験室

三次元磁気自動動作解析システム、地面反力計、筋電計、等速性筋力測定器、体幹筋力測定器などが完備され、スポーツ医学の実験や測定が行われます。



生理・生化学実験室

運動生理・スポーツ医学的研究を行うため、スポーツ医学実験室、生化学実験室、生理学実験室など多様な実験室が完備。



総合実験室

気温、湿度や風速が設定できる環境制御室をもつ実験室。[暑・寒環境での運動における留意点] など、さまざまな実験が行われます。



バイオメカニクス実験室

ビデオ画像をパソコンに取り込み、人の動作やスポーツ技術・戦術などを解析します。同時に地面反力やEMG、超音波画像なども測定します。



スポーツ心理学実験室

実験室・データ処理室・パッケージルーム・カウンセリングルームの4ブロックで構成。スポーツ選手の「こころと身体」の相互作用を測定・分析します。



社会調査室

スポーツ・レジャー・レクリエーション参加やスポーツ観戦などのデータ分析、プレゼンテーション資料の作成など、社会現象を調査・分析します。



大学院自習室

〈その他の研究施設〉

- スポーツ生理学実験室
- 試料分析室
- スポーツ栄養学実験室

[図書館]



国内外約 192,000 冊の専門書、学術雑誌、電子媒体資料が充実。

和洋の体育科学・スポーツ医学科学・教育学等の専門資料を中心に教養書、スポーツ関連欧文貴重書等約 192,000 冊、専門研究に役立つ和洋雑誌約 3,360 種を所蔵。各種データベースおよび電子ジャーナルや電子ブック等も図書館ホームページから利用できます。 <http://lib.ouhs.ac.jp/>



蔵書検索

本学で所蔵している資料の検索は図書館ホームページの「学内所蔵資料検索/OPAC」より行えます。



グループ学習室、閲覧個室

ゼミなどグループでの利用に便利なグループ学習室。論文やレポート作成などに意識を集中して利用できる閲覧個室はキャレデスクを完備。



視聴覚コーナー

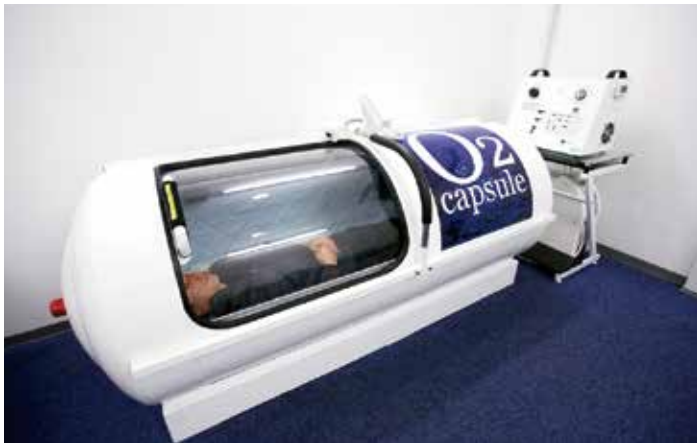
AV 機器が設置され、図書館所蔵の電子媒体資料の視聴ができます。



BRITISH SPORTS AND SPORTSMEN

全 15 巻が揃っているのは日本で本学を含めて2校のみという希少なもの。この他にも貴重なコレクションを所蔵しています。

[医療施設・附置施設等]



診療所・酸素カプセル

スポーツ整形外科と内科があり、保険証を持参すれば保険診療を受けることができます。当日予約にて疲労回復や睡眠不足などに効果がある高気圧酸素カプセルを利用することができます。



ストレングス&コンディショニング(S&C) ルーム

スポーツ科学・医学等の最先端の研究、充実した施設、器具、機材を活用し「教育」「研究」「実践(現場)」と連携して各クラブの競技力向上の支援を行っています。



情報処理センター

パソコンを快適に利用できる環境が整備されています。今や欠かすことのできない情報処理教育・IT サービスに対応しています。



教職支援センター

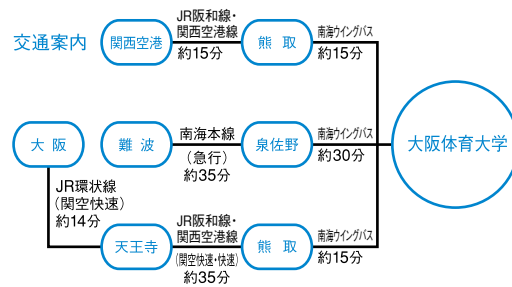
模擬授業教室や集団面接室・個人面接室を備えており、教員採用試験の現役合格者を増大させることを目標としたサポート活動を行っています。



学生相談室・スポーツカウンセリングルーム

臨床心理士やスポーツメンタルトレーニング指導士の資格を持つスタッフが、さまざまな相談に応じます。より充実した学生生活、競技生活をサポートします。

ACCESS MAP



大阪体育大学大学院

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
 TEL.(072)453-7031(直通) FAX.(072)453-7028
<http://www.ouhs.jp/>

学校法人 浪商学園

